

Oral (Theme) | 競技スポーツ研究部会：【課題B】競技スポーツによってどのように社会を豊かにするか

🎧 Wed. Aug 27, 2025 3:30 PM - 4:30 PM JST | Wed. Aug 27, 2025 6:30 AM - 7:30 AM UTC 🎧
Room2205(Education and research building block2 2F 2205)

[1a601-03] 競技スポーツ研究部会【課題B】口頭発表②

Chair:Riki Sukou(sukou.riki@jwcpe.ac.jp)

3:30 PM - 3:50 PM JST | 6:30 AM - 6:50 AM UTC

[競技スポーツ-B-04]

福岡県タレント発掘事業における運営システムの構築（政）
事業運営者の動向を中心に

*Yuki Inoue¹ (1. Nippon sport science university)

3:50 PM - 4:10 PM JST | 6:50 AM - 7:10 AM UTC

[競技スポーツ-B-05]

小中学生期を対象とするタレント発掘・育成事業における育成プログラムと支援体制の構築に関する質的研究（アスリート育成パスウェイ）
福岡県及び山口県の事例から

*Katsuyoshi Shirai^{1,2}, Shuhei Yamashita^{1,2}, Shunichi Onodera^{1,2}, Anna Tomori^{1,2}, Miki Haramura³, Mami Yamaguchi^{1,2}, Masahiro Hagiwara^{1,2} (1. Japan High Performance Sport Center, 2. Japan Institute of Sports Science, 3. Meijigakuin University)

4:10 PM - 4:30 PM JST | 7:10 AM - 7:30 AM UTC

[競技スポーツ-B-06]

スポーツタレント発掘・育成事業の育成プログラムと支援体制の構築に関する質的研究（社,コ,政）
シンガポールにおける事業の品質管理とリスク管理の事例から

*Shunichi Onodera^{1,2}, Anna Tomori^{1,2}, Masahiro Hagiwara^{1,2}, Mami Yamaguchi^{1,2}, Shuhei Yamashita^{1,2}, Miku Haramura³, Katsuyoshi Shirai^{1,2} (1. Japan High Performance sport center, 2. Japan Institute of Sports Science, 3. Menji Gakuin University)

Oral (Theme) | 競技スポーツ研究部会：【課題B】競技スポーツによってどのように社会を豊かにするか

📅 Wed. Aug 27, 2025 3:30 PM - 4:30 PM JST | Wed. Aug 27, 2025 6:30 AM - 7:30 AM UTC 🏠
Room2205(Education and research building block2 2F 2205)

[1a601-03] 競技スポーツ研究部会【課題B】口頭発表②

Chair:Riki Sukou(sukou.riki@jwcpe.ac.jp)

3:30 PM - 3:50 PM JST | 6:30 AM - 6:50 AM UTC

[競技スポーツ-B-04] 福岡県タレント発掘事業における運営システムの構築（政）
事業運営者の動向を中心に

*Yuki Inoue¹ (1. Nippon sport science university)

近年、多くの先進国では、オリンピック競技大会などの国際競技大会を見据えた国際競技力向上への取り組みが推進されている（日比野，2018）。その施策のひとつとしては、タレント発掘・育成（Talent Identification & Development以下「TID」と略す）プログラムがあげられる。TIDプログラムは、優れた素質を有する人材を発掘・育成し、より多くのトップアスリートを世界に輩出していくプログラムである。日本で実施されるTIDプログラムは、競技団体、国、そして地方自治体におけるプログラムの3つに分類される。日本におけるTIDプログラムは、2004年に始まった福岡県タレント発掘事業以降、全国的に拡がりをみせている。

従前の研究は、優れた素質を有する人材を見過ごさないように発掘するために測定や評価の方法が模索され（関谷ほか，2018；池田ほか，2022）、世界で活躍するトップアスリートへと育成するために運動能力の特性や評価基準などが明らかにされてきた（中尾ほか，2014；谷所ほか，2017）。そのなかで、TID事業の品質の維持・向上には事業実施主体の中核スタッフの質や体制が大きく影響を及ぼすと指摘しているが（阿部ほか，2009）、地域TID事業スタッフらがどのような事業運営を展開しているのかについて明らかにされていない。

そこで、本発表では、なぜ福岡県はTID事業を実施するに至ったのか。事業運営者らが福岡県タレント発掘事業を実施する際にどのような障壁があり、その障壁を如何に乗り越えたのか。これらを福岡県タレント発掘事業の事業運営者らに行なったインタビュー調査をもとに分析し考察する。そして、地域TID事業の中心的モデルといわれる福岡県タレント発掘事業がどのように事業の基盤を築いたのか検討する。

Oral (Theme) | 競技スポーツ研究部会：【課題B】競技スポーツによってどのように社会を豊かにするか

🌿 Wed. Aug 27, 2025 3:30 PM - 4:30 PM JST | Wed. Aug 27, 2025 6:30 AM - 7:30 AM UTC 🏠
Room2205(Education and research building block2 2F 2205)

[1a601-03] 競技スポーツ研究部会【課題B】口頭発表②

Chair:Riki Sukou(sukou.riki@jwcpe.ac.jp)

3:50 PM - 4:10 PM JST | 6:50 AM - 7:10 AM UTC

[競技スポーツ-B-05] 小中学生期を対象とするタレント発掘・育成事業における育成プログラムと支援体制の構築に関する質的研究（アスリート育成パスウェイ）福岡県及び山口県の事例から

*Katsuyoshi Shirai^{1,2}, Shuhei Yamashita^{1,2}, Shunichi Onodera^{1,2}, Anna Tomori^{1,2}, Miki Haramura³, Mami Yamaguchi^{1,2}, Masahiro Hagiwara^{1,2} (1. Japan High Performance Sport Center, 2. Japan Institute of Sports Science, 3. Meijigakuin University)

日本の地方自治体が主体となって実施するタレント発掘・育成事業（以下、地域TID）は、2004年に福岡県で開始されて以降、全国各地に展開されている。地域TIDの主な手法は、個人の適性に応じたスポーツを模索する種目適性型、特定のスポーツにおいて適性を見出し選抜する種目特化型、あるスポーツのアスリートが、自身の特性を活かすことのできる別のスポーツに変わる種目最適化型、の大きく3種類が展開されている。これらの取り組みからは、東京2020大会（11名）、パリ2024大会（13名）、北京2022大会（5名）など、国際大会に日本代表選手を輩出する成果が確認されつつある。しかし、地域TIDでは、アスリートの発掘時期や競技選択のタイミング、育成プログラムの時間・頻度と日常トレーニングの妥当性などのエビデンスが不足しているのが現状であり、トレーニング量と傷害のリスクを考慮したプログラム構築や地域TID修了時の競技継続の支援体制に課題があることが指摘されている。特に、ジュニアからシニアへの移行期はアスリートキャリアの中でも最も困難な時期であり、その支援体制の整備が求められている。そこで本研究では、地域TIDにおいて多くの国際大会出場選手を輩出し、かつ事業継続年数15年以上の福岡県および山口県を我が国の先行的な好事例と位置づけ、それぞれの地域TID関係者に対して、事業評価や育成プログラム及び支援体制の構築に関する内容の半構造化インタビューを実施した。そして、抽出された課題や事業の促進要因を実証的に示すことで、他の地域TIDにも応用可能な効果的かつ効率的な事業支援策を検討することを目的とした。

Oral (Theme) | 競技スポーツ研究部会：【課題B】競技スポーツによってどのように社会を豊かにするか

📅 Wed. Aug 27, 2025 3:30 PM - 4:30 PM JST | Wed. Aug 27, 2025 6:30 AM - 7:30 AM UTC 📍
Room2205(Education and research building block2 2F 2205)

[1a601-03] 競技スポーツ研究部会【課題B】口頭発表②

Chair:Riki Sukou(sukou.riki@jwcpe.ac.jp)

4:10 PM - 4:30 PM JST | 7:10 AM - 7:30 AM UTC

[競技スポーツ-B-06] スポーツタレント発掘・育成事業の育成プログラムと支援体制の構築に関する質的研究（社,コ,政）

シンガポールにおける事業の品質管理とリスク管理の事例から

*Shunichi Onodera^{1,2}, Anna Tomori^{1,2}, Masahiro Hagiwara^{1,2}, Mami Yamaguti^{1,2}, Shuhei Yamashita^{1,2}, Miku Haramura³, Katsuyoshi Shirai^{1,2} (1. Japan High Performance sport center, 2. Japan Institute of Sports Science, 3. Menji Gakuin University)

オリンピックや世界選手権大会などの国際的なスポーツイベントでは、国家的支援を受けたスポーツ強豪国がメダル獲得を目指して熾烈な争いが行われ、しばしば「The Global Sporting Arms Race」と評されている。こうした競争の中で、各国は自国の社会的・文化的文脈に応じたアスリート育成パスウェイの構築を進めている。アスリートが国際舞台で成果を収めるためには、スポーツタレントの発掘・育成に関する事業（タレント発掘・育成事業）の卓越性と効率性がより一層求められている。

このような事業運営の卓越性と効率性を支える要素として、品質管理とリスク管理が挙げられる。品質管理は、サービス・人材・プロセス・環境等の質を継続的に向上させることにより、組織の競争力と持続可能性を高めるものである。リスク管理は、事業の目標達成を妨げる潜在的な要因を特定し、それを軽減・排除するための体系的な取り組みである。こうした視点に基づくマネジメントは、アスリート育成の長期的成功において不可欠であると考えられる。

しかし、日本を含む多くの国々では、タレント発掘・育成事業における検証は限定的であり、とりわけ事業が直面する課題と、それを克服するためのプロセスに関する知見は乏しい。したがって、継続的かつ長期的にタレント発掘・育成事業を行っている諸外国の事例を詳細に分析することは、我が国の事業推進に役立つ可能性がある。

そこで本研究では、2004年に設立されたスポーツスクールを中心に、国を挙げて長期的なタレント発掘・育成事業を推進するシンガポールを先行事例として取り上げる。具体的には、アスリート育成に包括的に取り組む同国の政府系スポーツ組織の関係者に対して半構造化インタビューを実施し、品質管理とリスク管理の視点から、事業の課題と促進要因を明らかにすることを目的とする。